漢字を推理する

今までは、まだ学習したことのない漢字、初めて見る漢字は、先生に教えてもらうか、辞書で調べるかしなければ、読めないもの、わからないものと決まっていました。しかし、形声文字の構成法がわかれば、初めて見る漢字でも、どういう意味を持った、何と読む字か、おおよその見当がつくのです。

こういう学習法で漢字を学習していきますと、推理力が高まり、ほんとうの意味での学力がつきます。なぜなら、ほんとうの学力とは、知識を丸覚えして蓄えることではなくて、既知の知識を活用して、未知の分野を開拓していく力のことだからです。

今までのような、がむしゃらに漢字を覚えるような態度、ただ数を多く覚えさえすればよいというような学習法で得られた漢字力は、ほんとうの漢字力とは言えません。

では、漢字をどのように見、どのように考えたらよいのでしょうか。これを実例によってお話いたしましょう。

冓

まず、構造の“構”という字を考えてみることにします。冓という部首は、その字形が示しているように、棒をたてによこに交叉させ組み合わせて、物を形づくることを表わした部首です。発音は、交叉の“コウ”です。従って、“冓”の部首を持った字は、すべて“コウ”と読んで、“物を左右、または上下にさし渡す”“組み立てる”という意味を持った字と考えればよいのです。

構は、木を左右上下にさし渡し、組み立てることです。それで「構造」「構築」等と使います。

講は、言（ことば）を組み立てて、それを話し手から聞き手へとさし渡すことです。講義、講話、などと使います。

購は、貝がお金を意味する部首ですから“お金を相手に渡して、品物を買う”ことだとすぐ見当がつくでしょう。購入とは、買い入れるということです。

溝は、こちらから向こうへ“水をさし渡す”ためのみぞだということも、容易に察しがつくはずです。

このように“冓”という部首の持った意味や発音を理解することによって、それと何とが組み合わされるかにより、どのような意味の漢字ができあがるかということが推察できるのです。

「構、講、購、溝」これらの漢字を、ばらばらに一字ずつ無関係なものとして学習するならば、どの字一つを取ってみてもひどくむずかしく、覚えにくいものになるでしょう。ところが、これをひとまとめにして、相互に関連させて学習しますと、かえって、全体の方がこの中の一字だけを覚えるよりもやさしく簡単に覚えられ、しかも、その記憶は強く、しっかりとしたものになることが、よくおわかりいただけると思います。

では、形声文字の構成法を理解するために、いくつかの部首についてしばらく考えてみることにしましょう。